巻 頭 言

ICG の年会の開催に向けて

Towards the holding of ICG annual conference

東京大学　生産技術研究所　教授
井 上　博 之

Hiroyuki Inoue
Institute of Industrial Science, The University of Tokyo

ICG（International Commission on Glass）という組織は，1933年にイギリス，ドイツ，イタリア，スペイン，フランス，アメリカの６ヶ国によって設立され，現在では，欧州20ヶ国，南北アメリカ５ヶ国，アジア５ヶ国の国を代表する学協会と，10の企業や組織が加盟したガラスの科学と技術に関する国際的な協会である。ガラスの科学・技術，さらに，芸術・歴史・教育に係わる者の相互理解と協力促進を目的として，技術委員会（Technical Committee, TC）を組織し，ガラスに関する情報を収集し，ガラスに関する知識の共有と普及を行っている。さらに，３年毎に国際ガラス会議（International Congress on Glass）を開催している。第１回の1933年以来，イギリス，フランス，アメリカが各３回，イタリア，ドイツ，チェコ，日本が各２回，ベルギー，スペイン，ロシア，ブラジル，インド，中国が各１回，開催している。日本においては，1974年の第10回の開催の30年後に，2004年に第20回を京都で開催している。開催に関連する記事は，本誌の特集記事（Vol. 19, No. ３）に掲載されている。この国際会議の開催されない年には，各国の国内会議と共催で年会を開催している。2004年以降の国際会議と年会の開催地は，2005年 Shanghai（中国），2006年 Sunderland（イギリス），2007年*Strasbourg（フランス），2008年 Trencin（スロバキア），2009年 Vancouver（カナダ），2010年*Salvador（ブラジル），2011年 Shenzhen（中国），2012年 Maastricht（オランダ），2013年*Prague（チョコ），2014年 Parma（イタリア）である。（*は国際会議）欧州６回，南北アメリカ２回，アジア２回である。アジアの２回はいずれも中国であり，さらに2016年には Shanghai で国際会議が開催される。今年は，ASEAN で初めて Bangkok（タイ）で年会が開催される。

日本セラミックス協会のガラス部会の有志６名を中心に，ICG の会議の招致ワーキンググループを組織して，昨年，１年間かけて，企画案を準備してきた。会場を視察し，過去の開催の資料，最近の申請書，口頭説明の資料等を集め，会議費用の見積もりをし，さら

に会の主題の議論を重ねてきた。何とか申請書は出来上がってきたが，強力な競合国がいるために，簡単には招致が叶うとはいかないだろう。

開催日程は，2018年９月24日（月）から27日（木）で，会場はPACIFICO横浜である。日本セラミックス協会のガラス部会のガラス及びフォトニクス材料討論会とガラス産業連合会（GIC）のシンポジウムとの共催でICGの年会を開催する。24日には，ICGの技術委員会（Technical Committee）を開催し，夕刻から登録とWelcome Reception。25日の午前は，Opening Ceremonyで，午後から通常の口頭発表，26日は夕刻まで口頭発表の後，ポスターセッション，バンケット。最終日の27日の午前中は，口頭発表で最後にClosing Ceremony，午後は，見学・観光。通常の討論会の参加者は，200名。これに海外からの参加者150名が加われば，通常のICGの年会の規模になる。

この会の主題は，“The Innovative Glasses and Technologies；Contribution to Sustainable Society”であり，従来のガラスの科学と技術に加え，中心的なテーマを３つ挙げた。

１）“Innovative Glasses for Intelligent Living　我々の生活は，光ファイバやフラットパネルディスプレイなどによって，大きく発展してきた。さらに，継続的な発展のためには，様々な新しい機能をもった新しい材料が必要である。生み出されてきた材料と，様々な新しい試みに注目したい。

２）Innovative Processes and Technologies for Energy Saving　ガラス製造工程における消費エネルギーの削減は，エネルギーや環境の観点からも継続的な重要課題である。これまでの様々な手法とともに，革新的な溶融技術やその解析を集中的に議論したい。

３）Innovative Glasses and Processes for Radio-Active Waste Management　放射性廃棄物処理において，ガラス固化は重要な手法である。信頼性の確保・向上のためには，ガラスの科学と技術を結集し，さらに発展させる必要がある。世界で共有するに値する知識の構築を目指したい。

開催地は，国際ガラス会議も年会も，２つ前の会で開催されるCouncilの投票により決定される。2018年は，今年の９月のBangkokで決まる。